

大きな森のそばに、木こりのふうふがすんでいました。

このいえには、ふたりの子どもがいて、
兄の名まえはヘンゼル、
いもうとはグレーテルといいました。

はたけで、まったく作物がとれなかったある年のこと。

木こり

「はあ…、
とうとうたべものが
これだけに
なってしまった」

おくさん

「こうなったら、
子どもたちを
森においてくる
ほかないよ」

